

『自然を再生させた イエローストーンのおオカミたち』

ワイルドを取り戻せ！

キャサリン・パー／文 ジェニ・デズモンド／絵
永峯 涼／訳 幸島 司郎／監修

植田 彩容子／監修
化学同人 (J489 パ)



イエローストーン国立公園のおオカミたちが、人間に狩り尽くされた。そして、公園の生態系は崩れ始めた。それから 70 年。生態系を元に戻すため、おオカミを野に放つ計画が動き出す。放たれた彼らが再び生態系の頂点に君臨すると…木が生えて池ができた!?

夏のイベント★参加者募集！

ビブリオバトル

日 時 7 月 28 日 (日)・8 月 25 日 (日) 15:00~16:00

場 所 狭山台図書館 2 階 視聴覚室

対 象 小学生~大人

申 込 不要 持ち物 おすすめの本 1 冊



図書館のホームページから、読みたい本の予約ができます。

イベント、開館時間、休館日等の最新情報もこちらからご確認ください。

狭山市立中央図書館 ☎ 04-2954-4646

狭山市立狭山台図書館 ☎ 04-2958-3801

狭山市公式HP <https://www.city.sayama.saitama.jp/>



『園芸少年』



タネも、苗も、
おまえも、仲間

魚住 直子／著
講談社 (JF ウ)



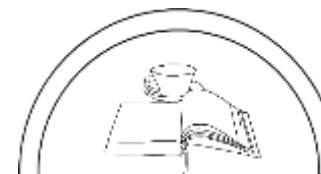
新入生の篠崎は、かつて園芸部が使っていた小さな空き地と温室を見つけた。彼は、そこで出会った大和田と一緒に、思いがけず部員ゼロの園芸部に入部することに。この場所を緑と花でいっぱいにすることが園芸部の活動内容だが、いつまで経っても芽は出ない。これでいいのか、園芸部。

YOMUZO TIMES

よむぞう タイムズ

FOR TEENS

第 3 号



Nature 敵か？ 味方か？

ひとりぼ
つちじや
ない



壁があ
つても

予約はこちら／



『ビーバー族のしるし』

エリザベス・ジョージ・スピア／著

こだま ともし／訳 あすなろ書房 (IF ス)

マットは父と一緒に、インディアンたちが住む森に入植した。インディアンの恐ろしい噂が頭から離れない彼だが、父があとから来る家族を迎えに行っている間、ひとりで家と土地を守らなくてはいいけない。しかしマットの孤独な生活は、順調とは程遠く…。

狭山市立図書館のティーンズ担当が 10 代のみなさんにおすすめするブックリストです。
第 3 号 Menu テーマ 「Nature 敵か？ 味方か？」

2024 年 7 月 15 日発行

B
O
O
K

M
E
N
U

『高校生、災害と向き合う』

舞子高等学校環境防災科の10年』



自分“たち”で守る

諏訪 清二／著
岩波書店 (J519 ス)



国内初の環境防災科がある、兵庫県立舞子高校。その生徒たちが、2011年の東日本大震災の被災地で実際に行った災害支援ボランティアとは。毎年のように起こる自然災害に向き合うために、自分たちにできることを考えてみませんか？

『レッドフォックス カナダの森のキツネ物語』

かけるのはプライドと命

チャールズ・G.D.ロバーツ／作 桂 有子／訳
チャールズ・リビングストン・ブル／画
福音館書店 (JF ロ)



追っ手を振り切る体力、作戦を立てる賢さ、警戒心と大胆さを併せ持つ一頭のキツネ、レッド・フォックス。これは、野生のキツネたちを観察した記録をもとに、彼が過酷な大自然で生き抜く姿を描いた物語。

『葉っぱの地図』



すべては
つながっていた

ヤロー・タウンゼンド／作
井上 里／訳
小学館 (JS タ)



母を病で亡くしてから、一人で暮らしているオーラ。植物と話せる彼女は、植物たちに黒いシミが広がっていることに気づく。同じ頃、あちこちの街で人に病が広がり始め、植物がその原因だと言って焼き払う者まで現れた。植物たちを守るために、オーラは村を飛び出した。

『林業少年』



未来が見える仕事

堀米 薫／作
スカイエマ／絵
新日本出版社
(JP ホ)



喜樹の祖父は、所有している山で林業を営んでいることを自慢に思っていた。しかし、祖母と母は、お金がかかるばかりの林業を良く思っていない。跡取りとしての期待を背負っている喜樹は、山を育てる祖父が誇りだった。そして、そう思っているのは、彼だけではないようで…。

『センス・オブ・ワンダー』



自然をよろこぶ

レイチェル・カーソン／著
上遠 恵子／訳
川内 倫子／写真
新潮社 (B404 カ)



センス・オブ・ワンダーとは、出会ったものに心を動かされる感性。例えば、美しいものを美しいと思う気持ちや、未知のものへの好奇心。子どもなら誰でも持っているそれは、大人になるにつれて失われていってしまう。みずみずしい心のままで成長するには、どうしたらいいのだろうか。

『世界のはての少年』



物語を慰めに

ジェラルディン・マコックラン／著 杉田 七重／訳
東京創元社 (JF マ)



ヒルタ島の子どもたちは、海鳥を狩るために夏の数週間を無人島で過ごす。しかし、いつまで経っても迎えが来ない。狩り続ける子どもたちの心のなかは、置き去りにされた恐怖でいっぱいだった。夏が終われば海鳥はいなくなる。食料も燃料もなくなったら、岩だらけの島で、どうやって生き延びればいいのか？

『もうひとつの屋久島から 世界遺産の森が伝えたいこと』

小さな一歩で国に立ち向かえ



武田 剛／著
フレーベル館 (J291 タ)



屋久島は、日本で初めて世界遺産に登録された。老木の大縄文杉が有名だが、登録の決め手は、樹齢千年を超える屋久杉の森と、亜熱帯から冷温帯の植物が小さな島に集まっているという珍しい特色があるから。しかしその登録前には、屋久島から森が消える危機があった。

『くじらの子』

ぼくもヒーローになりたい



石川 梵／写真と文
宮本 麗／写真
少年写真新聞社
(J664 イ)



インドネシアの東にある小さな村では、昔からくじら漁が行われている。モリをはめた竹竿でくじらに飛びかかる、原始的な漁だ。失敗すれば命を落とす危険もあるが、大きくくじらを獲らないと、村人みんなが食べていけない。村人のために協力するくじらとりたちはみんなのヒーローだ。